

令和4年9月17日

江戸川区立〇〇小学校道徳授業地区公開講座公開授業を参観して

後藤 忠

第1学年 はしの上のおおかみ

- ・ 同一教材を使ったにもかかわらず、各学級の児童の実態や担任の指導観に基づいてそれぞれ独自の学習指導過程を考え、授業を組み立てていた点に非常に好感を覚えました。(このことは各学年に共通して言える素晴らしい点です。)
- ・ 教材提示もよく工夫されていました。各学級担任の個性がにじみ出て、心に響く教材提示だったと感じました。(教材提示は第1学年だけしか見られませんでした。他の学年もきっと素晴らしかったに違いないと思いました。)
- ・ B [親切、思いやり] の内容項目は、「困っている人」や「幼い人」に向けられるもので、そうでない人に対してする親切を「お節介」と言います。

また、導入は授業の入口として非常に大事な学習指導過程です。正しくははっきりした入口から授業に入った子どもは授業中に迷子になりません。したがって、導入は「困っている人」、「幼い人」に絞って行った方が授業の焦点がぴったり合ってたのではないかと思います。

第2学年 およげないりすさん

- ・ 中心発問場面は外していませんでしたし、発問も各自よく工夫されていました。
- ・ 役割演技に果敢に挑戦したことを大いに称えたいと思います。実際のところ、児童の発言はどうでしたか? 「でもね」を入れない方が話しやすかったのではありませんか? つまり、この場面を役割演技させてもあまり意味がないというか、効果的でないように思います。では、どの場面なら役割演技が可能でしょうか? それは最後の「4匹が島に向かって進んでいく場面」か、あるいは「4匹が島に着いて一緒に遊ぶ場面(教材の続きを設定する)」がよいと思います。これからもどんどん役割演技にチャレンジしてください。

第3学年 悪いのはわたしじゃない

- ・ 発問構成は的を射ていると思います。
- ・ しかし、この「展開の後段」の学習内容は教材から離れていないので「展開の前段」の学習です。すると、「展開の前段」の発問数が4つになってしまい、発問の精選が必要になります。
- ・ 「なぜ」、「どうして」という理由を問う発問には、いわゆる「正解」があります。したがって、こういう発問は児童の思考を知的理解に引き込み、「答え探し」に走らせてしまい、心情に深く食い込まないという欠点があります。慎重に扱いたい発問です。
- ・ 「展開の後段」の学習については、「道徳科学習指導案作成(超)×3 入門」レッスン⑦に詳しく書いてありますので、よく読んで理解を深めてください。

第3学年 自分をコントロール

- ・ 導入はとても大事ですので、もっと工夫する必要があります。「道徳科学習指導案作成(超)×3 入

門」レッスン⑧を読んで工夫してください。

- 展開の前段の第1発問と第2発問（中心発問）の内容は同じではありませんか？（教材が手元にないので分かりませんが…）
- 「展開の後段」の学習は、教材から離れていないので「展開の前段」の学習です。すると「展開の前段」の発問数は4つになり、3つに精選する必要が出てきます。
- 「自分がもし〇〇だったら…」という発問は今流行っている発問ですが、それはNG発問です。なぜNG発問なのかについて「後藤忠のホームページ」の「D クローズアップ道徳科」の中に詳しく載せていますので、いい機会ですからよく読んで理解を深めてください。
- 「展開の後段」の2番目の学習課題はもっと工夫する必要があります。「道徳科学習指導案作成(超)×3入門」レッスン⑦を読んで工夫しましょう。

第4学年 ブラッドレーの請求書

- 第2発問を中心発問にしていますが、はたしてそうでしょうか？ この時のブラッドレーの心の中は「本時のねらい」で純粋に満ちているのでしょうか？ 後悔とか、反省の気持ちも混じっていませんか？（教材分析表を見ればすぐ分ると思います。）では、中心発問場面はどこでしょうか？ それは最後の場面だと思います。
- 役割演技を取り入れた場面は大変適切だったと思います。
- 「なぜ」、「どうして」という理由を問う発問にはいわゆる「正解」があります。したがって、こういう発問は児童の思考を知的理解に引き込んでしまい、「答え探し」に走らせてしまって心情に深く食い込んでいけないという欠点があります。慎重に扱いたい発問です。

第4学年 絵葉書と切手

- 主題名はぴったり合っていますか？「道徳科学習指導案作成(超)×3入門」レッスン①を読んで、もう一度考え直しましょう。今後の主題名づくりのヒントになると思います。
- 役割演技をする場面は適切だと思います。「指導上の留意点」に役割演技の進め方や子供への指示、注意することなどを具体的に書いておくと、指導上とても役に立ちます。
- この教材のキーワードは、「正子さんは分ってくれる」の一言です。
- 中心発問はどの発問ですか？

第4学年 ゆめに向かって泳ぐ

- 教材と授業を見ていないので何とも言えませんが、学習指導過程の組み立て方がバラバラで、間違った指導案になっているようです。他の学級の学習指導過程を見て、どこが自分の学習指導過程と違うのか、自分で確認しましょう。

第5学年 稲村の火

- 主題名がドンピシャです。
- 各学級担任が導入から終末までそれぞれオリジナルの学習指導過程を作ろうと努力している姿勢に大変感動しました。

- この教材には中心発問場面候補が2つあります。一つは皆さんが選んだ◎の場面、もう一つは最後の場面です。どちらも濃いですね、どちらを選んでも的のど真ん中です。
- 展開の後段の学習は1組のように主題名を生かした課題設定をすれば、さらに授業が深まったと思います。

第6学年 ブランコ乗りとピエロ

- 1組、2組と3組、4組では微妙に中心発問場面が違いますね。どちらも的を射ていますが、児童はどちらの方がシャープに考えやすかったか、授業記録をもとに学年で話し合ってみましょう。よい研究になると思います。
- 「ブランコ乗りとピエロ」の学習指導過程としてはブレがなく、これでよいと思います。
- 今からつまらない話をしますので、気にしないでください。

私はこの教材があまり好きではありません。それはピエロが立派すぎるように思えるからです。日ごろから精進努力して磨いてきた芸を大王に見てもらおう名誉ある絶好の機会を勝手にサムに奪われて、怒り極限に達したのに、演技を終えて苦しそうにしているサムを見ただけで、急に寛大な気持ちに変化するなんて、私のような凡人には到底理解できません。「いい気味だ、ざまあ見ろ！」と言いたいところですが…、ダメでしょうか？ 寛容の価値を子どもに強引に押し付けている教材に思えて、胡散臭さを感じてしまいます。(このような教材は他にもあります。若干質は違いますが、「ロレンゾの友達」がそうです。)

- ※ なお、全体的に「指導上の留意点」の書き方についてよく分かっていない指導案が目立ちます。そこに書くべきことは何か、「道徳科学習指導案作成(超)×3 入門」レッスン⑪で確認しましょう。

以上

〇〇小学校からの質問に答えて

- 1 気持ちを考えさせる発問だと話し合いが盛り上がらない。2極化の話であれば盛り上がるが、気持ちだけを聞くと時間が余ってしまう。

A 多分、発問に選んだ**場面**がよくないのだと思う。誰もが同じようなことしか考えない場面を聞くとそうなる。教材分析表をもとに、多様な反応（考え）がもてると予想される場面を選んでそこを発問場面にすると、こういうことは少なくなると思う
- 2 発言が一定の子になってしまう。

A 多分、発問から指名までの「自分の考えをもつまでの時間」が短かすぎるのだと思う。まだ考え中なのに話し合いが始まってしまうと、授業についていけない子どもが続出する。とにかく待つ。30秒～40秒待つだけで授業は大きく変わる。
- 3 言葉が広がっていかない。「やだ」「いえーい」になってしまう

A そうした言葉をまず受け止めた上で、「もう少し詳しく教えてくれない？」と問い返す。
- 4 評価の仕方が分からない（一人ひとりを多角的に見とるにはどうしたらよいか。1年生だと言語化が難しく、書くことに限界がある。どのように見とればいいのか。言葉が出ない子・書けない子も担任が「心が動いているな」と主観で評価していいのか。）

A 評価の仕方を求める前に、まず「道德の評価とは何か？」、「何のために評価するのか？」、「何を評価するのか？」について考えなければならない。その上で「どのように評価すればよいか？」を考えよう。目的なき方法は無意味である。

とりあえず、「道德科学習指導案作成(超)×3 入門」レッスン⑩を参照してみよう。詳しいことはホームページの「B 特別の教科 道德の基礎基本」の中に載せてある。
- 5 立てた指導案とは違う流れでやる方が良さそうな雰囲気になった場合は変更してもいいのか。

A 答えにくい質問だが、明らかに間違っていることに気付いたら変更する方がよいと思う。「過ちて改むるに憚ることなかれ」という諺もある。
- 6 偉人を扱った教材の扱い方（偉人の弱いところも伝えていかななくてはいけないと以前指導していただいたが、偉人の素晴らしい話しか載っていない教材はどうしたらよいか。）

A 道德の教材に含まれる「価値理解」と「人間理解」と「他者理解」のうち、「人間理解」を含まない内容のものが偉人を扱った教材には多い。しかし、中には深い人間理解に資する素晴らしい教材もあるので、そういう教材を探すことが大事だと思う。素晴らしい話しか載っていない教材は取りあえず捨てた方が無難である。なお、小学校学習指導要領解説特別の教科道德編102ページが参考になると思う。

7 教材を途中で切って話し合いをさせるのはありか。

A 結論から言って「あり」である。

教材の提示法には大きく3種類がある。「全文提示法」、「分断提示法」、「削除法（オープンエンド）」である。指導の目的や意図に応じて使い分けることになるが、心情を深める指導では全文提示法が効果的であり、判断力を高める指導では分断提示法が効果的な場合がある。（しかし、「当たった、外れた」のクイズに流れないように注意する必要がある。）削除法はその扱いが非常にむづかしいので、ある程度指導力がつくまでやらない方が無難である。（例えば、「橋の上のオオカミ」では「オオカミはいつまでもクマの後ろ姿を見ていました」に続く後の文を削除して使用する、「ブラッドレーの請求書」では「おかあさんの請求書を読んだブラッドレーの目には涙があふれました」に続く後の文を削除して使用する、など。）

8 展開の後段の手立てをより多く教えていただきたい。子供に落とし込む際に意識した方がよいことはなにか。

A 端的に言って、展開の前段の学習（子供の思考、意識）の流れを断ち切らないようにして自己を見つめる学習に入ることが大事である。そのためには、授業者は常に本時の主題を意識していることが大切である。その工夫については「道徳科学習指導案(超)×3 入門」レッスン⑦、及びレッスン⑨の3段目が参考になると思う。

9 主題を子供が理解している時に、更に理解を深めるのが難しい。（5年「稲むらの火」命の大切さはわかっているが、そこから自己を見直すのか。）

A 道徳科での「理解」とは単なる知的な理解ではない。「自覚」である。知識として知っていることを腹の底から実感をもって「知る、理解する」という意味の「理解」である。「生命のかけがえのなさは知っていた。しかし、道徳の授業を通してその理解が一層深まった」という授業にする必要がある。「稲むらの火」では、お百姓が1年間汗水流して、苦勞して収穫した大切な宝の稲、命より大事に思う稲である。村人の命を救うためとはいえ、それに火をつけることは断腸の思い、傷口に塩をすり込まれるほどつらいことだったに違いない。そのことを実感として理解させなければ、この教材は単なる美談で終わってしまう。

以上